



高い志のもと、日々「キラリ」と光る活動をしている人たちがいる。
「黄金の郷」いわて平泉を支える、魅力溢れる「こしえるびと」のメッセージをシリーズで紹介していく。

農業ビジネスにかける思い

室根町矢越

小野寺

隆好さん

ピーマン栽培に
チャレンジ

山々が紅葉に色づいた11月上旬。室根町矢越のハウスの中にはまだピーマンが青々と育ち、その間にてきぱきと作業を進める小野寺隆好さんの姿があった。

2014年に室根に帰郷した隆好さんは、就農を目指して相談イベント「新農業人フェア」の一関ブースに足を運んだ。それを機に市内の農業法人や農家を見学し、農業体験をしながらさまざまな品目を見てきた中で、「直感的に」選んだ作物はピーマン。トマトに比べ軽量で収穫や管理がしやすく、雇用する従業員の





愛娘の品南ちゃん(1)の笑顔も隆好さんのパワーとなっている

地域の資源を活用

作業性も良さそうな点が、将来の経営を考えると良いと思った。16年に6・8坪の面積で生産を開始。自身が代表を務める株式会社TKTとして出荷した。スキルアップのため、JAの部会指導会にも積極的に参加。生産マニュアルも活用し、それでも分からなければJAの指導員に手ほどきを求めた。生産への熱意は収量に反映し、初年度に部会の新人奨励賞を受賞。好スタートを切り、隆好さんの生産意欲はさらに高まっていく。

経営する会社ではピー

マン生産のほか、ハウス施工・修繕・買い取りなどを手掛ける。高価なハウス資材の購入は、新規就農への高いハードルの一つ。自身の就農準備を通してそれを痛感した隆好さんは、離農者の遊休ハウスを買い取り、解体して、新規就農者らに中古で販売する事業を始めた。解体などの作業には、電気工事会社で習得した金属管加工技術が役立つ。この事業は離農者からも、初期投資を抑えたい新規就農者にも喜ばれ、農村景観の維持にも一役買うことに。隆好さんは「地域に貢献できる農業事業を展開していきたい」という思いをさらに強くしている。

園芸振興を室根から

次の展開として思い描くのは、自社を農業研修

受け入れ法人にすること。「室根には若いトマト農家が多いし、自分はピーマンを作っている。室根に園芸振興の拠点をつくりたい」と生産振興も視野に入れ、「農地のない人でも就農できるように実践農場を準備するなど、農業を始める環境づくりをサポートしたい」と新規就農者の拡大にも構想を膨らませる。

自分の生産についても「病害の対処がまだまだ。先輩生産者のノウハウを学び技術を向上させたい」と課題克服を誓う。隆好さんの農業にかける情熱はこれからも熱く燃え続ける。

—— 地域を農業で活性化し発展させていきたい。そのために農業が魅力的な職業ということを実践するための挑戦は続く。

PROFILE

小野寺 隆好さん (31)

Takayoshi Onodera

室根町矢越

1986年室根町矢越生まれ。高校卒業後、電気工事会社に就職し千葉県内で勤務。独立を目指して退職し、資本金作りのため飲食チェーン店にアルバイト勤務、のちに社員登用。店長として経営知識を学ぶ。2013年、株式会社TKTを設立し代表に就任。14年帰郷。16年に就農し、同社農業事業を本格化。今年はピーマン12坪を作付けした。妻、長女と3人暮らし。



私の一品

重量選別機

作業省力化のため今年導入。「労働賃金に換算すると2年で元が取れる試算ですぐに導入した」と話す隆好さん。作業時間が大幅に短縮されることで生産拡大・品質向上を目指す。